

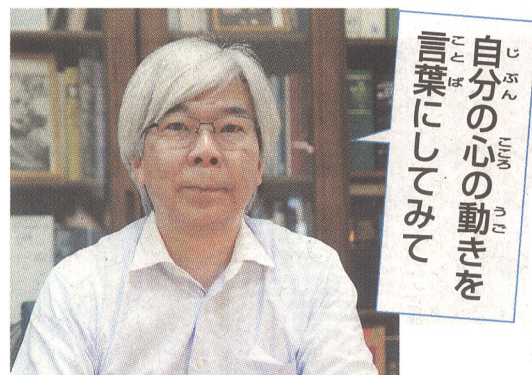
「もしも…」が新しい道をひらく



イラスト・栗山リエ

もしも空を飛べたら……？ もしも現代に恐竜がいたら……？
 現実にはありえないようなことを頭の中で考えるのが「空想」
 です。東京大学大学院の教授で、脳と言葉について研究する酒井
 邦嘉さんは「みなさんが思っている以上に、空想は生きていく上
 で大切な力」と話します。
 (佐藤美咲)

専門家に聞く「空想」の魅力



酒井邦嘉さん ©朝日新聞社

頭の中の情報だけで自由に考える

自分の心の動きを言葉にしてみて

私たちの脳には日々、読んだり聞いたりした情報が入ってきます(入力)。その情報を理解し、書いたり話したりすることで、情報を出しています(出力)。
 「知らない言葉や体験してないものなど、情報量が少ない場合には、自分なりに『こうじゃないか?』と想像し、理解した上で、伝えたい形に組み立て、出力しています」
 ありえないものを脳の中で仮想的につくる空想は「情報を入れることにも出すことにも」

「人類の進歩につながるような考え方や発明は、空想から生まれる」と話します。
 「空想は、新しいことを知ろうと好奇心をかきたてるきっかけにもなる」といいます。

人類の進歩の糸口 好奇心をかきたてる

人どやりとりをするときに出る言葉を「外言」といいます。
 一方、空想のように自分の頭の中で考えるときに出る言葉を「内言」と呼びます。酒井さんは「自由に考える力は、自分の心の動きを言語化する内言に支え

「どんなこと」もできる「空想の時間」

酒井さんは「現代は空想がしにくい世の中になっている」と心配します。インターネットなどで調べれば、すぐに答えが得られます。指示するだけで文章や画像をつくり出す生成AI(人工知能)の利用も広まっています。

「いかに自分の頭を使わず、効率的にできるかに重きが置かれていくように感じます。それでは、新しいものを生み出すことはできません」
 空想の時間を大切にしたい一人として、酒井さんは宮沢賢治を

ネットから離れて 本や音楽にふれて

空想する時間をつくるために

は、長時間見続けてしまいがちなインターネットやYouTubeなどを遠ざけることも必要です。目の前のことに取り組んでいるだけでは、他の人が考えないようなアイデアを思いつけないからです。「作家や科学者などになりたいと思っている人はなおさら、空想する力が求められます」
 空想のきっかけになるものとしておすすめするのは「本を読むこと」。作者がえがいた空想の世界を自分の体験としてとらえ、いろいろと考えをめぐらしてみましよう。「音楽を聞いて、自分だったら、どんな楽器を増やすかなど、考えてみるのもいいですね」